

ごあいさつ

皆さまにおかれましては、平素より京都北都信用金庫にご支援ご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年度も当金庫へのご理解を一層深めていただくため、「京都北都信用金庫ディスクロージャー 2026」を作成いたしました。ぜひご高覧賜りますようお願い申し上げます。

日本経済は、所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調が続いており、大手企業などでは企業収益が高水準で推移する一方で、中小企業を取り巻く環境は、物価上昇や原材料価格の高騰、深刻な人手不足など、依然として厳しい状況が続いています。また、金融面では、「金利のある世界」へ入り二度の政策金利引き上げが行われ、世界経済ではアメリカとイスラエルによるイランへの攻撃に伴う地政学リスクの増大により、不確実性の高い状況が続いています。

こうした状況の中、当金庫においては、地域のお客さまの事業支援や生活支援に取り組みました。

預金は、キャンペーン定期預金の取扱いを行いました。が、相続による払戻しや貯蓄から投資へのシフトが進んだことから、期末残高は前期比 150 億 88 百万円減少の 7,990 億 66 百万円となりました。

また、貸出金は、事業者向け融資において経営支援を中心に課題解決に向けた提案活動などに取り組みましたが、政策金利引き上げによる貸出金利上昇に警戒感が強まったことなども影響し、期末残高は前期比 4 億 25 百万円減少の 3,684 億 45 百万円となりました。

損益面については、市場金利の上昇に伴う余裕資金の運用による収益増加などで、当期純利益は前期比 46 百万円増加の 13 億 77 百万円となりました。結果、自己資本比率は前期末から 0.32 ポイント上昇の 9.39%となりました。

地域を取り巻く環境が厳しさを増していく中、地域の事業者を元気にすることが「地域の活性化」につながるとの認識のもと、資金繰り支援はもとより、本業支援に加え地域のコーディネーターとして取引先事業者に対し、行政機関、専門家、副業人材などをつなぎ、協働してイノベーションを創出する取組みに努めてまいります。

引き続き「地域・お客さま・職員のしあわせづくり」に向けて全力で取り組んでまいりますので、今後とも会員の皆さまの一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



理事長 藤原健司